



奉仕を通じて
平和を

田中作次
2012-13年度
国際ロータリー会長

国際ロータリー第2800地区 1959年6月9日創立

鶴岡ロータリークラブ

平成25年3月19日(火)
第2624回 例会
(本年度第33回)

例会場 東京第一ホテル鶴岡 例会日 毎週火曜日
(鶴岡市錦町 2-10) (12:30~13:30)

ホームページ◎<http://www.tsuruokarc.org/> Eメール◎tsuruoka08@rid2800.jp

本日(4/2)のメインプログラム

ゲストスピーチ
(株)JTB東北ふるぶトラベル営業推進プロデューサー
鈴木 正昭氏

次週(4/9)のメインプログラム

クラブ協議会(次年度計画)

会長挨拶

阿部純次君

始めに先週開催いたしました第10回理事会報告をさせていただきます。

- (1)橋本至君の退会が承認されました。
- (2)4/13(土)開催の2800地区RA第22回地区年次大会登録料は、式典・クラブ負担、レセプション・3,000円はクラブ負担とします。
- (3)5/21(火) 孟宗汁家族例会は甚内旅館において、午後6時半点鐘、登録料は会員4,000円、家族2,000円、友好クラブ11,000円ということで開催することに決まりました。
- (4)4/9(火)のクラブ協議会は、例会の会長報告、幹事報告、委員会報告終了後、12時10分ごろより開催いたします。協議事項として、①各委員会の活動状況の再チェック、②地区協議会報告(RI及び地区方針について)、③次年度会長のクラブ運営方針について協議したいと思います。

3月16日は、モンゴルよりジャンチブさんが来鶴され会員8名出席のもと、歓迎会を開催致しました。ジャンチブさんより、昨年モンゴルの学校に対し、当鶴岡クラブが学用品を贈呈したことに大変感謝されておりました。会員皆様にも感謝の意を伝えてくれとの事でありました。(様々なお土産を頂戴しました)

今週、22(金)~24(日)まで、鹿児島西RC創立50周年式典へ、会員15名、家族5名、米山奨学生の金さんの21名で、皆さんを代表して出席してまいります。

3月は「識字率向上月間」となっております。識字率向上は1986年(S61年)以来、国際ロータリーの強調事項です。地域社会で、読み書きを向上させるプロ

ジェクトを支援しています。地域の識字水準がその地域の生活水準に直結するという観点から、この月間中に読み書き、計算のできない人たちの援助するために、識字率向上に取り組んでいます。日本では義務教育によって、ほとんどの児童生徒が読み書き計算等が出来、99.8%と世界でも有数の識字率を誇っています。

その一方、国語力、計算力の低下が問題になってきています。電子機器の開発、発達によって、数多くのことが簡単に出来るようになりましたが、自ら文字を書くという習慣が少なくなった為、読むことは出来ても書くことが出来ない状態になりつつあるようです。

今、必要なのは正しい日本語を子ども達に教え伝えていくことが必要ではないでしょうか。

欧州では、もともと、おなじアルファベットを使うなど言語間の親和性は高く、小学校時代から外国語を教える国が多く、EU27カ国では、小学生の6割近くが英語を学んでいるようです。しかし、最近は経済成長著しいアジアの方が、欧米の英語人口を上回っていると指摘されるようになっております。

小学校3年生から英語を必修化した中国では、毎年2億人ずつ英語利用者が増えていると言われており、英語は他国語を話す人たちの意思伝達のツールとしての地位を確立しつつあると言われていたようです。

「朝日新聞」では、日本の基礎的な英語力は、どんどん衰えていると述べています。日本語は大切にしなければいけないと思いますが、グローバル化が一層進む昨今、英語による日常的なコミュニケーションをとるのが不自由なことであれば、日本は、世界から取り残されていってしまうのでしょうか。

識字率向上の課題は、開発途上国などの深刻な問題であるとともに、われわれ日本の身近な所にも様々な課題があると考えてしまう次第です。

出席報告

会員数	41名
出席	24名
出席率	66.70%
前々回確定出席率	61.11%

■RI会長 田中作次

■地区ガバナー 和田 廣

■会長/阿部純次 ■副会長/丸山隆志 ■幹事/西川富美子 ■会長エレクト/嶺岸禮三
■会報委員会/橋本 至・嶺岸禮三・小林健郎・武田啓之

事務局:鶴岡市馬場町11-63 鶴岡産業会館3階 TEL (0235) 28-3375 FAX (0235) 28-3376

ガバナー事務所

◎新世代フォーラムのご案内

日時：4月27日(土)13時受付開始

場所：山形県JAビル

私の「絵の描き方」

樋渡 美智子 さん



こんにちは。私は「適当でいい」という言葉が大好きで、現職時代にも色々難しいことを言われると「いいよ、適当で」そういう言葉で済ませてきました。それでよく管理職になっていると言われるのですが、そうすることで皆伸び伸びと

仕事ができるのだと思っています。その癖がまだ抜けてなくて、私は、NHK文化センターで絵の講座を持っていますが、学習者のなかには完璧な物を求める人がたくさんいます。それで「いいよ、適当で」といっているうちに、「うちの先生はでたらめ描いていいと言う先生だ」と言われるようになりました。「適当」が「でたらめ」という言葉に変化してしまい、ちょっと反省していますが、すでに時遅しです。

先日「アートはサイエンス」という千住博さんが慶応義塾先端生命科学研究所に来られました。彼はアメリカで絵を勉強し、現在帰ってきて京都造形大学の学長になっております。羽田に京都の竹林の大きな絵がありますが、あれは彼の作品で、設置したのが東京東江戸川ロータリーの島村さんなのです。

「アートはサイエンス」というのは、まず何もないものから、きちんとした理論立てをして、工夫することなのだと言っていました。そういえば私もそんなに難しい言葉で言わなくても通じるものがあると感じました。

あれは配色が悪いとか、あの看板はもう少しこうすればよくなるのではとか、世の中の物が全部そういう風に見えるのです。

もう一つは、今回はこれを描こうと思った時に、今まで蓄積されて頭の中にあるものをどう描くかということです。これはプラハに行った時に描いたものです。プラハは百塔の街と言われるほど塔の多い街です。

それでこの絵をどう描こうかと思った時に、「サイエンス」風にいうと、遠くの方がだんだん低くなります。これには科学的な根拠があります。遠くをかすんでいる感じにしたい時、じゃあどうするのか。これはティッシュで絵に色をつけてからティッシュを濡らして拭いたものです。そうすると遠くがかすんで見えてくる。前の方ははっきりと色が見えます。建物も手前は大きく見えるがだんだん奥に行くにしたがって小さくなりかすんでいく。ということで、でたらめに描きなさいと言うのは言

葉は悪いのですが工夫して書きなさいと言いたかったわけです。写生という電信柱がここにあるから絶対にここに描かないといけないのではなくて、その配置を考えて動かしてもいい、心の中にあるものを描く。10月頃ですか渋谷の文化村でイギリスの美術展があった時にある有名な人の作品がありました。彼の作品と実物の写真と対比して展示してあったのですが、全く違っていました。一部は同じですが、それが一つの絵としても許されるものであってそういうことも必要なことなのではないかということです。

画家というのは、なりたいたいと思っている人の2%しか生活できないという厳しさがあります。ですから表に出ている人は大変に華やかですがそれは本当に2%の方に過ぎないのです。

ヨーロッパは絵に対して大変保護されていて、息子が入った大学はヒトラーが受験して3回ほど落とされた大学なのですが、戦争の時にヒトラーはそこを全部没収しました。その大学は受験料も授業料もいらない大学でした。ただ施設を使用すると言うので、当時半年で4万8千円を使用料と払えばいいところでした。ただ、ある画家に言わせると今はアメリカだということです。アメリカの明るいイラスト的な物、それが大分流行っているそうです。

「行きつ、戻りつ」という言葉があります。これは作品を完成させるために、いくつかの構想があって、あっちいったりこっちいったり、反省したり、また描いたり、これが私の絵のスタイルです。ご清聴ありがとうございました。

委員会報告

◆第二ブロック青少年交換プログラム意見交換会

西川富美子さん

斎藤地区青少年交換小委員会委員長から今年の青少年交換は派遣・受入れ共に失敗だったという報告があった。予算も使われずにいるため、一人当たり1962円を各クラブに返金することにした。次年度に関してはすでに羽黒高等学校の生徒が決まっており、ホストクラブの鶴岡東ロータリークラブ会長より協力の要請があった。それに対して立川、余目両クラブから我々は弱小クラブのため協力は厳しい。自分たちがやった時は単独でやっていたので、人を当てにしないでやったらどうかという厳しい意見も出された。

スマイル ☺

西川富美子さん 先々週「雛鑑賞とうどん打ち」例会ご利用ありがとうございました。太いのは私の作品です。おいしかったといわれホッとしました。

阿部純次君 樋渡先生スピーチありがとうございました。

嶺岸禮三君 次年度新委員会構成承認ありがとうございました。